

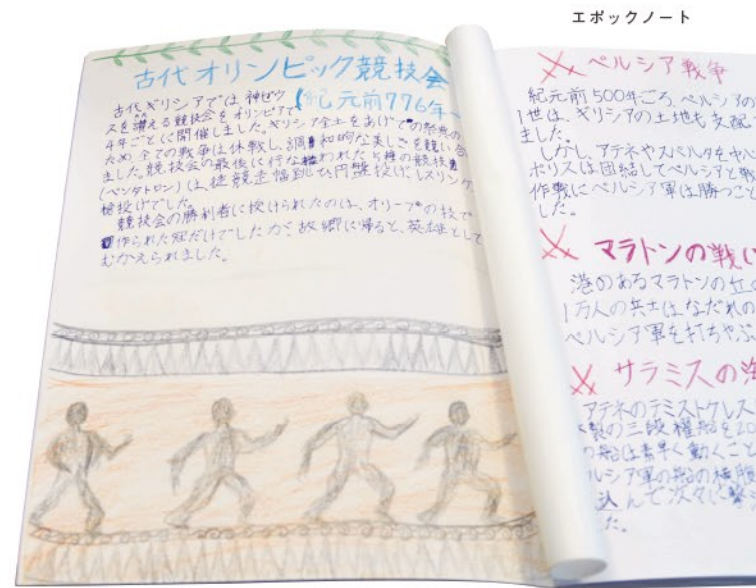
古代オリンピックと 古代ギリシアエポック



思春期になると、体に丸みを帯び、脂肪がついてきたり、筋肉の発達に使い方による差が出てきたりして、自分の体を重く感じるようになってきます。また、自意識の発達から、周囲の目を気にしたり、照れたりして、ストレートに意思を発現させるのがちょっとむずかしくなったりします。

その一歩手前、11歳のころは心と体が調和した golden age と呼ばれます。筋肉、骨格がしっかりしてきて、思い通りに動けるようになり、こうしたい、こんなふうがいい、という意思もはっきりしてきます。

自分の力を素直に自覚し、信じ、それを使うことを喜ぶ、「先生、それ、私できるよ、やってあげるね」と言って身軽に自分から手伝ってくれて、自然な手応えと喜びを感じるのがこの時期です。



エポックノート

contents

- P1 古代オリンピック
- P2 [Pickup Report 01]
メディアとの付き合い方
[専科教員インタビュー]
実践を通して身につけたものを伝えたい
- P3 [Pickup Report 02]
メディアとのかかわり
- P4 [学童員インタビュー]

そこにやってくるエポックが「古代ギリシア」。けっして恵まれた風土ではなかったその地に人智を尽くして優れた都市国家を築き、現代につながる学問や芸術を生み出した古代ギリシアの人々。個人の意思をはっきり表明する弁論を重んじ、直接民主主義でペルシアの強権国家を破ったアテネ、不言実行を美德とし、死を恐れず戦ったスパルタの戦士たち。子どもたちはその直情に共感し、人間の力を信じ、その最良のものを神々に捧げるオリンピックを、自分の力をだしきる舞台としてめざしました。



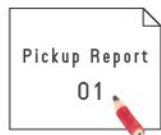
取り組んだのは古代五種競技（短距離・中距離走、跳躍、槍投げ、円盤投げ、レスリング）です。距離や速さの記録ではなく、いかに美しく、投げ、跳び、走るか。自分で美しさのイメージを持ち、自分の体で実現できるベストを目指して練習を重ねました。ボート体操の研鑽を積んだ先生の指導で、からだを美しく伸ばし、バランスの良いポーズ、リズムのある動きをなめらかに続ける練習も毎日積み重ねました。そして迎えた本番では、ギリシアのキトンに身を包み、緊張も気負いもない一途な気持ちと潔さで全力を出しきって、観客に爽やかな感動を届けてくれました。

7年生担任 中山誠子

※エポック授業：すべての学年の1限目に毎日行われる105分の授業で、国語、算数、理科、社会にあたる教科を3～4週間にわたって集中して学ぶものです。



前日にはクラスで夕食にギリシア料理を作ります。砂糖がまだなくて、甘味ははちみつ、胡椒もまだなくてスパイスはコリアンダーシード、古代のレシピを味わいました。



メディアとの付き合い方

3年生クラス担任 今泉夏奈

私がスマホを持つようになったのは、中学3年生の頃です。周りでもちらほらと名前を聞くようになったSNSを、友人から勧められて「続かないと思うけど…」と言いながらアカウントを作ったことをよく覚えています。

アンデシュ・ハンセンの著作「スマホ脳」では、脳から出る快樂物質として知られるドーパミンについて述べられています。人間の脳は元々、新しい情報を得るとドーパミンによる報酬がもらえるようになっているそうです。言うなれば、誰もが「もっと学びたい!」という気持ちを持っているのです。ところが、新しい知識や情報を電子メディアによっていとも簡単に手に入れられるようになると、近道が大好きな脳はすぐに報酬が得られないことに我慢できなくなってしまうそうです。即座にごほうびを得られることに慣れてしまうと、上達に時間のかかることを学べなくなってしまうのです。

今思うと私は成長してできることもたくさん増えましたが、スマホを持つ以前の私の方が「宿題が終わったら楽しみにしていたあれをしよう」というように、ごほうびを得るまでの集中力が長続きしていたように思います。

シュタイナー教育では、9年生(中学3年生)で初めてコンピュータについての授業が始まります。その後、生徒たちは各種電子メディアを使い始めます。それまではスマホを持つことはもちろん、テレビを観ることもありません。そんな中で育った子どもたちに対し、「シュタイナー教育を受けた子どもたちは集中力がある」という意見を耳にすることは多いです。

私は、子どもが電子メディアに触れないようにすることは、「もっと学びたい!」と思った時により遠くへ跳べる「跳躍力」を授けてあげることなのではないかと思っています。テクノロジーを使いこなす練習は、その力をつけた後でも遅くないのではないのでしょうか。手近な快樂を得られる画面の中の小さな世界に溺れるより、それを道具として使いこなす外の世界を力強く自由に翔けて行ってほしいなと、私は思います。



平均で一日四時間、若者の二割は七時間も使うスマホ。だがスティーブ・ジョブズを筆頭に、IT業界のトップはわが子にデジタル・デバイスを与えないという。なぜか? 睡眠障害、うつ、記憶力や集中力、学力の低下、依存——最新研究が明らかにするのはスマホの便利さに溺れているうちにあなたの脳が確実に蝕まれていく現実だ。教育大国スウェーデンを震撼させ、社会現象となった世界的ベストセラーがついに日本上陸。(新潮社より)

教員インタビュー

TEACHER INTERVIEW 04



PC・テクノロジー専科教員

岩瀬 成彦 先生

1973年名古屋生まれ。愛知学院大学歯科技工専門学校卒業。設備会社「Parts Net」及び、岩瀬歯科技工所代表。電気、ガス等設備関連の資格を多数保有し、2020年から3年間、学園の「PC・テクノロジー」専科教員を務める。

— 授業ではどんなことをするのですか？

これまで、ラジオの組み立て、エンジンの分解と組み立て、パソコンの解体などをしました。中を見ることで構造を知ってもらいます。技術の発展のつながりの過程や、物理の理論との関わりを実際に肌で感じることを目的です。部品一つひとつをじっくり見てもらいます。パソコンは「超高性能の電卓」という位置づけなので、まずは、電卓を組み立てることから始めます。そこでは「リレー回路」を使って仕組みを知ることで、アナログとデジタルの間をつなぐ体験をします。このほか、滑車、てこ、電波、磁気等の分野の実験もおこなっています。

自分が実践をとおして
身につけてきたことを伝えたい。

— 授業の中で大切にしていることは何ですか？

どんな出来事もみんなお月様と同じで、日や立場によって見え方が変わるものだと思います。様々な角度から見たり、裏側を想像したり。授業をとおして、そんな体験してほしいですね。

パソコンは、人類が初めて手に入れた用途が決まっていない道具です。なので、ぜひ有効活用してほしいと思います。得意、不得意はあると思いますが、パソコンが「得体の知れないもの」から少しでも身近なものになればうれしいです。数式や理論はそれだけを覚えようとするのではなく、実践の中で覚えることで身につくものだと思います。

— 子どもたちに伝えたいことは？

わからないことを質問できる力はとても大切です。受け身ではもったいないので、ぜひ積極的に先生に質問してくださいね。私は、自分が実践をとおして身につけてきた数々のことを、みなさんにたくさん伝えたいと思っています。



磁気の実験



エンジンの仕組み

メディアとのかかわり

卒業生保護者

シュタイナー教育では小さな時から長い間メディアやIT機器から遠ざけて育てることが良いとされています。テレビ、映画、ラジオ、新聞、パソコン、スマホ等広範囲なものが対象になっていて、今の時代に実践するには大変なことです。無理と思って匙を投げたくなくともその気持ちは大いに共感出来ます。ただ、娘がもう少しで二十歳になろうとしている今、出来る限り実践したことが本当に良かったと思っています。

ところで、皆さんは私たちの生きるこの世界は素晴らしいところだと思いますか？美しく、心穏やかに安心出来て、回りの人と共感し合えるそんな世界です。私は子どもたちにはそうしてもらいたいです。思えるなら世界や人が信頼でき、安心して一生を自分らしく生きていけるとしています。

娘は「世界は素晴らしい」と思える人になってくれたと思っています。酷く、騒がしく落ち着かず、争いが絶えない部分や、人、地域もあるという現実も理解した上です。

もしも、後者のような思いが心の中に先に根を張ってしまったら、その子は安心して人生を歩めるでしょうか？メディアやIT機器から流れてくる情報は、良い情報もありますが、殺伐とした事件ニュース、娯楽や購買をあおる広告、勇敢なヒーローのアニメも正義と設定された側が悪を暴力でねじ伏せるものばかりではないでしょうか？わざわざ悪い面をクローズアップして、これが世の中だよと繰り返し教育しているように見えないでしょうか？脳や身体への負荷といったことだけでなく、深層の人生観に対するメディアの影響力は大きいと思います。

悪い面も見せないといけなとか、触れさせないと世間知らずやIT機器を使えない大人になってしまうという声を聞きますが、安心して大丈夫です。家庭や学校などでの大人や友だちとの関係の中で、酷いこと、心を揺るがされること、仲違い、小さな心と身体には十分な体験です。リアルな出来事を味わわないと暮らせません。1～8年生で学び、手先を鍛えてきた彼らなら9年生からでも世界のこと、IT機器の使い方を理解していけます。

昔からテレビは自分にとって当たり前に見るものでした。見ない人が居るなんて信じられなかったんです。でも子どもが生まれて、子どもにとって本当に必要なものは？と考え、子どもにはテレビを見せないことを選択しました。

今、子どもが喜ぶと思って見せているテレビの内容を一度考えてみませんか？キャラクターは可愛いけれど、善と悪がいつも存在し、悪は常に悪者で最後は暴力で排除されていたり、人の失敗をみんなで笑いのネタにする番組や不安をあおるようなニュースも多い。今、目の前の子どもに本当に必要なものは何か、何を与えたいか、感じて欲しいか考えていくと、テレビは必要ないと感じると思います。またテレビの無い生活をしてきた娘と当たり前テレビのある生活をしてきた自分を比べると、自分は評価を求める先がいつも外の世界にあると感じます。

学校はどこが偏差値が高いとか、就職先は早く決めて、大手の会社に入ったら良いとか。でも娘にはそれがなく、周りがどうではなく、常に自分と向き合い自分の中から答えを出しています。テレビだけの影響だとは言いきれませんが、何気なく見てしまうテレビだからこそ、無意識に刷り込まれる情報にもっと注目して欲しいと思います。当たり前が本当に大切なことなのか、未来ある子ども達の為に今一度考えて欲しいし、納得できるなら実践して欲しいと思います。



シュタイナー教育入門 現代日本の教育への提言

高橋 巖／著
若松英輔／監修・解説

ルドルフ・シュタイナー研究の第一人者、高橋 巖氏が1984年に発刊した「シュタイナー教育入門」を、批評家・随筆家の若松英輔氏が、40年経った今読み解き、分かりやすく解説しています。個々の人間の「かけがえのなさ」の秘密に迫る伝説の名著。



教育や子育てのヒントに出会う

推薦図書



シュタイナー教育入門 I・II・III

I 10歳から9歳までの子どもの成長と12感覚器

II 9歳から14歳までの子どもの成長と気質・メディア

III 14歳から21歳までの思春期の成長

鳥山 雅代／著

シュタイナーの人間観を通し、子育てが楽しくなる視点がいっぱい！「誕生前のこと」「気質にあった教育的対応」「学校のカリキュラム」「親が行う準備」などなど...どの年齢で子どもたちの何が成長し、どのように変化するのか、ふさわしい年齢にふさわしい内容をふさわしい方法でどのように学んでいくのか、具体例をたくさん挙げ、分かりやすく紹介されています。

愛知シュタイナー学園では、イベントの際に書籍の販売も行っており、ここで紹介している以外にもシュタイナー教育に触れた様々な本を用意しています。お手にとってご覧いただけます。ぜひお気軽にお越しください。

学童指導員さん
インタビュー

『子どもたちの姿を通して自分と向き合う』
楽しさや喜びだけではなく
痛みも大切な経験
それを奪わない



愛知シュタイナー学園 学童指導員

松浦 華枝先生

名古屋市出身。服飾関係のお仕事や、石垣島のペンションで住み込みで働いていたことも。自然に囲まれた生活をめざし福井県に引っ越し、田畑と子育て中心の暮らしをしてきた。現在はお子さんの進学を機に名古屋にも拠点を置き、愛知シュタイナー学園の学童指導員を勤めている。

愛知シュタイナー学園では、子どもたちの放課後の時間を豊かなものにする目的で、授業のある日の放課後17時半まで学童保育を実施しています。

日々、子どもたちと過ごす時間の多い学童指導員さんにお話を伺いました。



— 学童指導員になったきっかけは何ですか？

娘が小学生の頃なかなか集団生活に馴染めず、オルタナティブスクールを考えた時期がありました。その中のひとつにシュタイナー教育があり、名前だけ知っていました。

それからシュタイナーの学びに触れることはなかったのですが、名古屋に来てから織物を習いたいと立ち寄った工房の隣に愛知シュタイナー学園があることを知りました。

素敵な雰囲気と、子どもたちの生き生きとした姿が印象的で、開いた学園のホームページで学童員の求人を目にしました。子どもに関わることがしたいと思っていましたし、シュタイナー教育にも興味があったので迷わず応募しました。



— 学童指導員として子どもの前に立つ際、意識していることはありますか？

ひとりの大人として毅然と子どもの前に立ちたいと思っています。今は素のまま、ありのままの自分で立つしかないと思っています。

100%の自分でぶつかってくる子どもに対して取り繕えないなど。起こること全てが新鮮で、知らないことを知っていく楽しさを感じています。何か問題が起きたときは、しっかり子どもたちの声に耳を傾け、自分たちで解決する力を持っていると信じて寄り添うことを大切にしています。

— 実際に学童員になり、子どもたちとの日々はいかがですか？

一言で言うと驚きの連続！ 自分もこんなふうに感じたかった、こんな言葉をかけて欲しかったと、幼き日の自分と対話しているようで、自分自身と向き合う時間が増えました。子どもたちの姿を通して色々な気づきを得ています。

— 学童でのエピソードを教えてください

砂場でお店屋さんが開かれたり、時には壮大な作品や建造物ができあがることもあり、どこからこの発想がくるのかと、いつも驚かされます。できあがるすべてのものがドラマティックで、限られた条件の中で様々なものを生み出していく子どもたちの姿に良い刺激をもらっています。

— 子どもたちは学童でどんな時間を過ごしていると思いますか？

授業や家の中とは違う一面を表現したり、クラスメイトの意外な姿を見ることで“自分”を感じ、色々な可能性を広げる良い時間を過ごしていると思います。一人ひとりの個性が本当に愛おしく、私みんなのファンなんです。今日はどんな姿が見れるのかと日々わくわくしています。



求人情報

学童指導員さん募集



詳しい求人情報は
Webサイトをご覧ください

- 大人として子どもの前に立つ自覚を持ち、自らも学び成長したいと願う方
- 子どもの育つ環境のために、シュタイナー教育を理解し保護者や教員と共にはたらくことができる方

Webサイト・SNSで最新情報をご確認ください

隣接したQRコードを紙などで隠して読み取ってください。



公式 Web サイト



オフィシャル ブログ



Instagram



facebook



公式 LINE

ニュースレターについて

愛知県で唯一の全日制シュタイナー学校「愛知シュタイナー学園」による発行です。教員と保護者の協力のもと、執筆からデザインまでおこなっています。子どもたちの学びと教員のまなざし、保護者の想いを四季折々に綴ります。

認定NPO法人
愛知シュタイナー学園 初・中・高等部
〒470-0115 日進市折戸町笠寺山42-13
Tel & Fax: 0561-76-3713
HP: <http://aichi-steiner.org>
E-Mail: aichisteinerschool@nifty.com

アクセス

